令和５年度　外国語科・外国語活動実践・研究計画

部　員	○山﨑　麻絵、佐々木　絵理子、石田　智之、鎌田　雅子、丹　理人、猿田　千穂子、井上　駿太

研究テーマ
自分の考えや気持ちを伝え合う活動を通して、外国語を用いたコミュニケーション能力を積極的に高めようとする子どもを育む学び

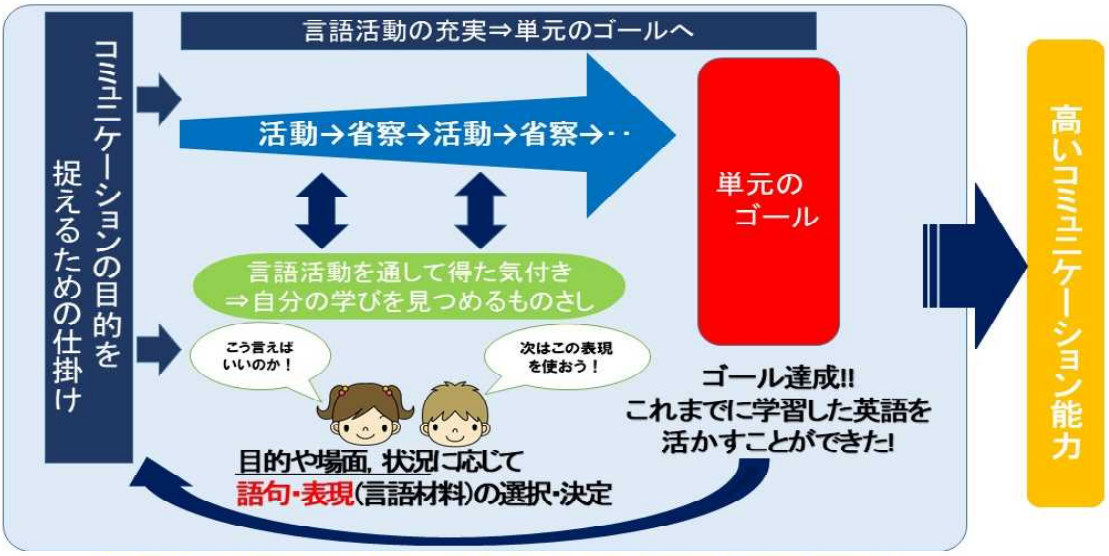
1　研究テーマについて

昨年度の実践では、子どもの思いや願いをコミュニケーション活動のゴールに据えた単元構想や、子どもと教師でルーブリックをつくりながら進める授業を行うことで、子どもが自分で設定したゴールを明確にもち、活動に取り組む姿が見られた。このことから、よりよいコミュニケーションを支える「学びのものさし」を、協働で見出すための手立てとして有効であることが見えてきた。その上で、よりよいコミュニケーションを実現するために自らの学びのものさしを更新していく手立てとして、自らの学びを深めていくための単元構想やＩＣＴの活用方法を探っていく必要がある。

こうした現状を踏まえ、外国語を用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合うことに喜びを感じ、主体的にコミュニケーションを図っていく姿を期待し、本研究テーマで実践を積み重ねていく。

また、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、外国語で互いの考えや気持ちなどを、言語材料を駆使して理解したり、伝え合ったりするところに教科の本質があることから、コミュニケーションを捉えるための仕掛けを重要なものと捉え、単元のゴールを明確にして実践に取り組んでいきたい。

外国語科・外国語活動で目指す自律した子どもの姿
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、必要な語句や表現を選択・決定し、言語材料を駆使して自分の考えや気持ちなどを伝え合う子どもの姿
- 実際に外国語を用いて互いの考えや気持ちなどを伝え合う中で、内容面や言語面での新たな気付きを見いだし、次の学びへつなげようとする子どもの姿



図：外国語科・外国語活動　自律した学習者を育てる学習のプロセス

2　研究の重点　＜○は具体的な取組の例＞

よりよいコミュニケーションを実現するために、自らの学びのものさしを更新していく手立て
- ○学年の系統性をもたせたり、単元を組み合わせたりすることによって、子どもが表現するために用いる言語材料の幅を広げる。
- ○ＩＣＴ機器やポートフォリオ（学習の成果物）を活用し、内容面や言語面での気付きを記録することを通して、次の学びにつながる省察の場を工夫する。